

6.1 片持スラブ形階段の配筋

表6.1 片持スラブ形階段の配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

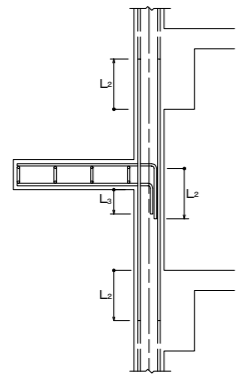


図6.1 片持スラブ形階段配筋の定着

1. 壁配筋は、4.1(2)による。
2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
3. スラブ配筋の継手及び定着長さは、標準仕様書(表5.3.4)のLとする。

6.2 二辺固定スラブ形階段の配筋

表6.2 二辺固定スラブ形配筋

配筋種別	上端筋、下端筋とも(全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

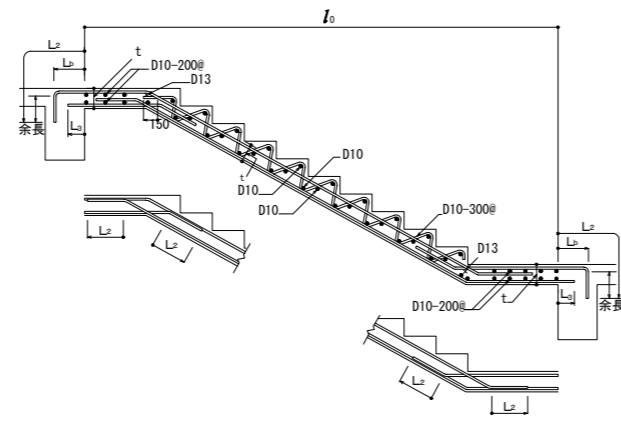
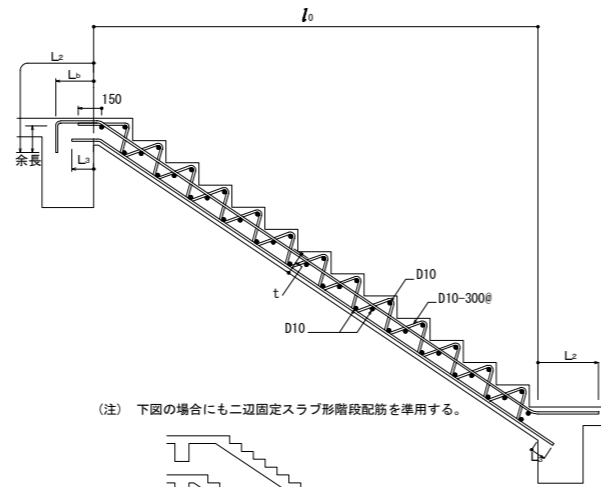


図6.2 二辺固定スラブ形階段配筋(その1)



(注) 下図の場合にも二辺固定スラブ形階段配筋を準用する。

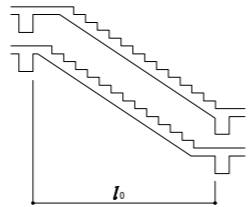


図6.3 二辺固定スラブ形階段配筋(その2)

7.1 梁貫通孔の配筋

- (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は、図7.1による。
- (2) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- (3) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端よりD/3 (Dは梁せい)の範囲には設けてはならない。
- (4) 孔は、柱面から、原則として、1.5D以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。
- (5) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (7) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図7.2による。
- (8) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
- (9) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突出しは10mm以上とする。
- (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋1-13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (11) 溶接金網の割付け始点は、横筋であばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
- (12) 他の開孔を設けない範囲は図7.3による。

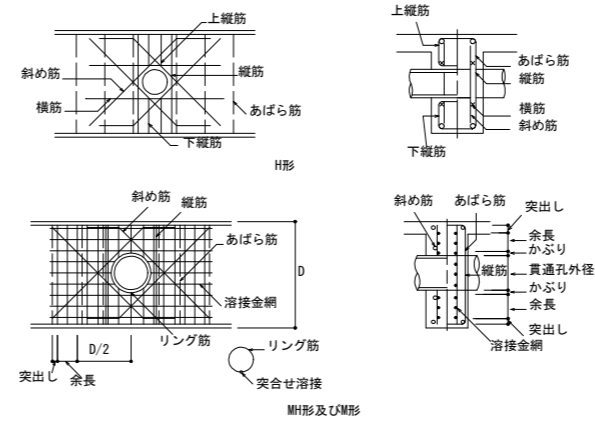


図7.1 梁貫通孔補強筋の名称等

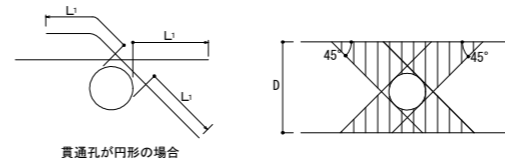


図7.2 補強筋の定着長さ

図7.3 他の開孔を設けない範囲

7.2 梁貫通孔の補強形式

表7.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2	2-2-D13	2-2-D13	なし	なし	
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H7	4-2-D22	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	

(注) — — は、一般部分のあばら筋を示す。

表7.2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13	なし	
M3	4-2-D13	2-6φ-100#	
M4	6-2-D13	2-6φ-100#	

(注) — — は、一般部分のあばら筋を示す。

表7.3 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2	2-2-D13	なし	なし	
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH4	4-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH5	4-2-D16	2-2-D13	2-6φ-100#	
MH6	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100#	
MH7	4-2-D19	4-2-D13	2-6φ-100#	

(注) — — は、一般部分のあばら筋を示す。

7.3 コンクリートブロック帳壁との取合い

(1) 控壁の配筋

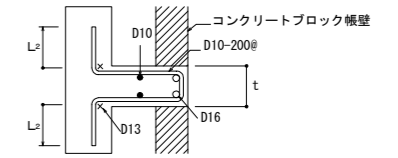


図7.3 控壁の配筋(水平、垂直とも)

(2) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強

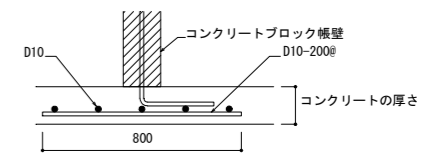


図7.4 壁付き土間コンクリートの補強配筋

工事名	令和6年度 土地改良技術 近畿農政局土地改良技術事務所災害応急用ポンプ資材庫建築工事
図面名	新設資材庫 構造関係共通事項(配筋標準図その4)
年月日	
尺度	図面番号 S-06
会社名	
事業(務)所名	近畿農政局 土地改良技術事務所

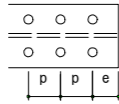
構造関係共通事項 (鉄骨標準図)

1.1 縁端距離及びボルト間隔等

(1) 縁端距離及びボルト間隔
縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。
ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、図示による。図示がなければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。
また、アンカーボルトの縁端距離は図示による。

表1.1 縁端距離及びボルト間隔 (単位: mm)

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M22		
M24	45	70

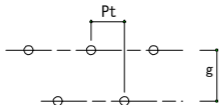


(2) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔 (単位: mm)

ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt	
	ねじの呼び	
	M12, M16, M20, M22	M24
35	50	65
40	45	60
45	40	55
50	35	50
55	25	45
60	-	40



(3) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位: mm)

A又はB	B		最大軸径	B		最大軸径	B		最大軸径
	g1	g2		g1	g2		g3	g3	
45	25		12	100	56	16	50	30	12
50	28		16	125	75	16	65	35	20
60	35		16	150	90	22	70	40	20
65	35		20	175	105	22	75	40	22
70	40		20	200	120	24	80	45	22
75	40		22	250	150	24	90	50	24
80	45		22	300	150	24	100	55	24
90	50		24	350	140	24	110	60	24
100	50		24	400	140	24	120	65	24
125	50	35	24						
130	50	40	24	※1 千鳥打ちとした場合					
150	55	55	24						
175	60	70	24						
200	60	90	24						

1.2 溶接継手の種類別開先標準

突合せ継手の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	

T型継手の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 22$	
$19 < t \leq 40$		$22 < t \leq 40$	

部材が直交しない場合の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$6 < t \leq 40$		$6 < t \leq 19$	
$19 < t \leq 40$		$19 < t \leq 40$	

かど継手の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$		$t \leq 12$	
$6 < t \leq 19$		$12 < t \leq 19$	
$19 < t \leq 40$		$19 < t \leq 40$	

隅肉溶接の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 16$		$t \leq 12$	
$16 < t \leq 40$		$12 < t \leq 22$	

隅肉溶接のサイズ

(単位: mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	11	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$12 \leq t \leq 40$		$16 \leq t \leq 40$	

重ねアーク溶接 (フレア溶接) の開先標準

(単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼レ形溶接)

1.3 鋼管分岐継手詳細

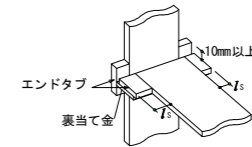
自動機械により開先加工を行う場合はその限りではない。

(単位: mm)

適用管厚	3.2mm ≤ t ≤ 12mm
交角	30° ≤ θ ≤ 150°
D-D断面図 主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。	

1.4 鉄骨溶接施工

- (1) エンドタブ・裏当て金の鋼材の種類及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。
- (2) エンドタブ
エンドタブの形状は母材と同厚、同開先のものとする。



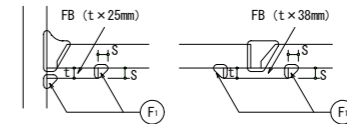
エンドタブの長さ(単位: mm)	
溶接方法	ls
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

(3) 裏当て金

裏当て金の溶接

(ア) 裏当て金の組立溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行ってはならない。

(イ) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



裏当て金の厚さ (単位: mm)	
溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ (単位: mm)	
裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

(4) スカラップ

改良型スカラップ

(ア) スカラップ半径 Sr1 は35mmとする。Sr2 は10mmとする。

(イ) スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



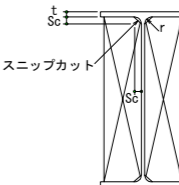
従来型スカラップ

スカラップ半径Srは35mmとする。



(5) スニップカット

(ア) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

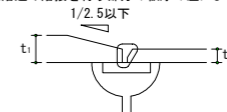


スニップカットの寸法 (単位: mm)				
t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

ただし、既製形鋼のスニップカットについては、 $Sc = t + 2$ により求めるものとする。

(6) 溶接部分の段差

(ア) 完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合は低応力高サイクル疲労を受ける場合。



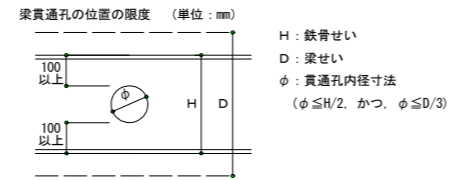
工事名	令和6年度 土地改良技術 近畿農政局土地改良技術事務所災害応急用ポンプ資材庫建築工事
図面名	新設資材庫 構造関係共通事項 (鉄骨標準図その1)
年月日	
尺度	- 図面番号 S-07
会社名	
事業(務)所名	近畿農政局 土地改良技術事務所

(7) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件

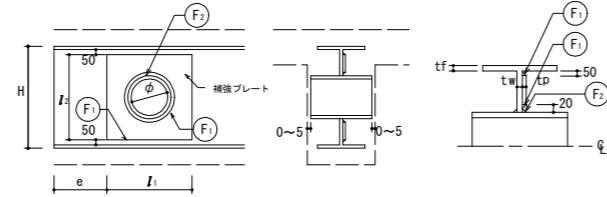
鋼材の種類	規格	溶接材料	入熱 (kJ/cm)	パス間温度 (°C)
400N級炭素鋼 (STKR, BCR及びBCPを除く。)	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11, 15	40以下	350以下
		YGW-18, 19	30以下	450以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U	40以下	350以下
		T490Tx-yMA-U	30以下	450以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		
JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下	
JIS Z 3315	G49AOU-CCJ G49AOU-NCC, NCCT等	40以下	350以下	
490N級炭素鋼 (STKR及びBCPを除く。)	JIS Z 3211	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下
	JIS Z 3312	YGW-11, 15	30以下	250以下
		YGW-18, 19	40以下	350以下
	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U	30以下	250以下
		T490Tx-yMA-U	40以下	350以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		
JIS Z 3214	引張強さ570MPa以上のものを除く	40以下	350以下	
JIS Z 3315	G49AOU-CCJ G49AOU-NCC, NCCT等	40以下	350以下	
520N級炭素鋼	JIS Z 3312	YGW-18, 19	30以下	250以下
400N級炭素鋼 (STKR, BCR及びBCPに限る。)	JIS Z 3312	YGW-11, 15	30以下	250以下
		YGW-18, 19	40以下	350以下
490N級炭素鋼 (STKR及びBCPに限る。)	JIS Z 3313	T490Tx-yCA-U	30以下	250以下
		T490Tx-yMA-U	40以下	350以下
		T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		
490N級炭素鋼 (STKR及びBCPに限る。)	JIS Z 3312	YGW-18, 19	30以下	250以下
	JIS Z 3313	T550Tx-yCA-U T550Tx-yMA-U		

1.6 梁貫通孔補強

- (1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部に貫通孔を設ける場合は、次による。
 (ア) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリートの梁せいの1/3以下とする。
 (イ) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

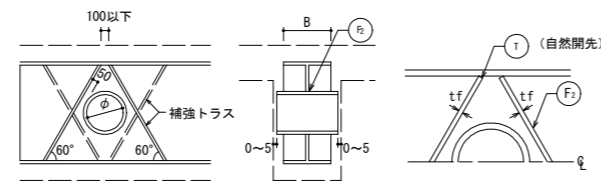


- (2) 貫通孔の補強方法は、構造図による。
 補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。
 補強プレート法
 (ア) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。
 (イ) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。



I_1 は3φ又は I_2 のうち小さい方とする。(e≧Hとする)
 e: 材端と補強プレートの間隔

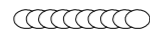
補強トラス法
 スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



1.5 重ねアーク溶接 (フレア溶接) を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接 (フレア溶接) を行う場合の溶接長さ (L) は、ビートの始点 (La) 及びクレーター (Lb) を除いた長さとする。

L: 片面フレア溶接の場合 10d
 両面フレア溶接の場合 5d



La及びLbは1d (軽量形鋼については1S) 以上
 d: 異形鉄筋の呼び名に用いた数値
 S: 溶接のサイズ

1.7 その他

- (1) 広幅平鋼の取扱い
 BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。
 (2) フィラープレートの材質
 フィラープレートを使用する場合、材質はSS400とする。
 (3) もや、胴縁類の取付け用ボルト
 もや、胴縁類の取付け用ボルトを普通ボルト結合とする場合は、二重ナットとする。

工事名	令和6年度 土地改良技術 近畿農政局土地改良技術事務災害応急用ポンプ資材庫建築工事		
図面名	新設資材庫 構造関係共通事項 (鉄骨標準図その2)		
年月日			
尺度	-	図面番号	S-08
会社名			
事業(務)所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		

角形鋼管

F値295N/mm以下
□-150×150 ~ □-300×300 用

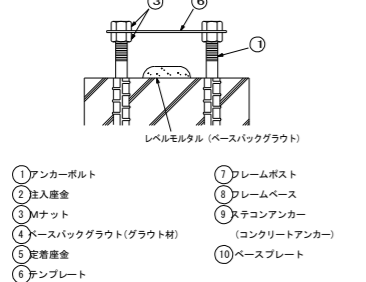
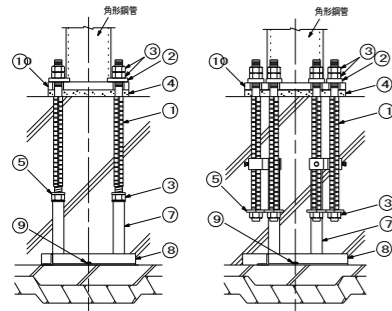
(財)日本建築センターによる一般評定「BCJ評定-ST0093-17」(平成30年9月21日付)

ベースバック柱脚工法 標準図

●ベースバック柱脚工法の設計は「ベースバック柱脚工法設計ハンドブック」による。

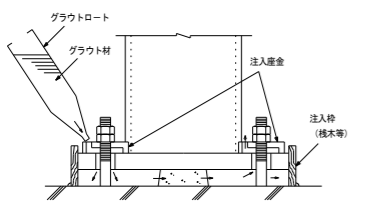
1. 工法概要

1.1 構成部材



①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④ベースバックグラウト(グラウト材)
⑤定着座金
⑥テンプレート
⑦フレームポスト
⑧フレームベース
⑨ステコンアンカー(コンクリートアンカー)
⑩ベースプレート

1.2 柱脚の定着方法概要



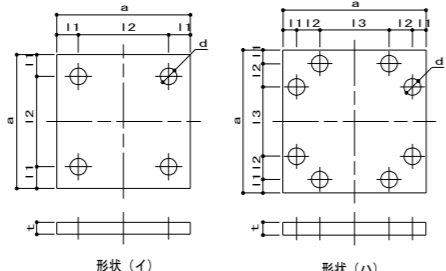
2. 柱

Table with columns for F value (N/mm²), steel type, and application. Lists BCP235, STKR400, BCR295, and TSC295.

3. 構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

●材質 SN490B [JIS G 3136]



3.3 Mナット

Table with columns for call number, dimensions A, B, C(e), and material. Lists M27, M30, M33, M36, M39.

3.4 定着座金

Table with columns for call number, dimensions e1, t, d, and material. Lists M27, M30, M33, M36, M39.

ii) アンカーフレーム Cタイプの場合

Table with columns for call number, dimensions e1, e2, t, d, and material. Lists M30, M33, M36, M39.

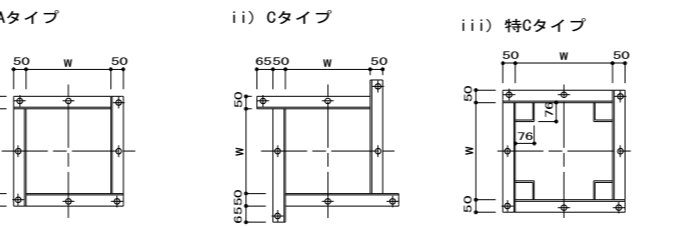
3.5 注入座金

Table with columns for call number, dimensions a1, a2, c, t, d, and material. Lists PM27, PM30, PM33, PM36, PM39.

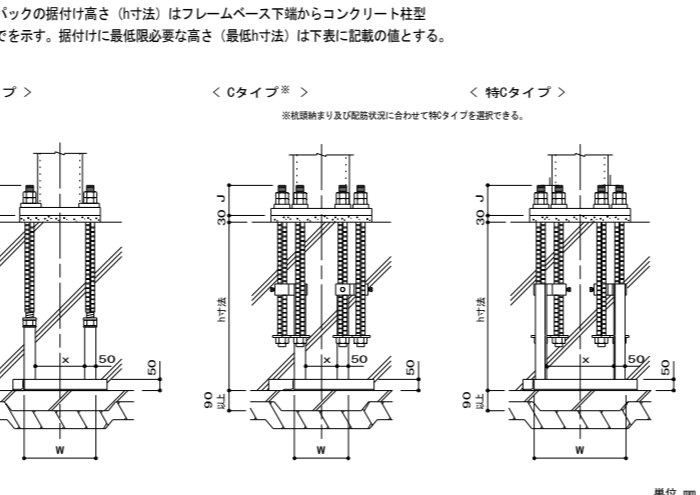
3.2 アンカーボルト (Mアンカーボルト)

Table with columns for call number, dimensions L, X, b1, and base strength. Lists M27, M30, M33, M36, M39.

3.6 フレームベース



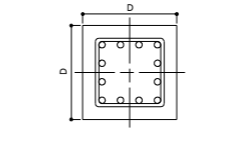
3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法



4. コンクリート柱型

4.1 形状・材質

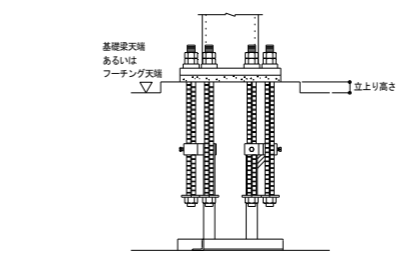
●形状
柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースバック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。



●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm以上とする。
●鉄筋
SD295 (D13, D16)
SD345 (D19, D22)

4.3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合は、Lシリーズを使用することができる。



5. 工場製作 (溶接)

●組立
●ベースプレートの中心線 (YU+FF79YU+FF76YU+FF9EYU+FF77線)
●溶接方法 (完全溶込み溶接)
●完全溶込み溶接とする。 (JASS 6 鉄骨工事による)

Table with columns for welding method, dimensions, and standards. Lists JASS 6 and JASS 7.

●ベースプレートの予熱
●気温 (鋼材表面温度)が5℃以上でのベースプレートの予熱は次に示す予熱温度標準により行う。その他必要に応じて適切な予熱をする。

Table with columns for welding method, steel type, and preheating temperature. Lists SN490B and SN490B.

●検査方法: 溶接部の検査は超音波探傷検査により行う。
●施工管理: 7. 本工法の施工及び施工管理参照。

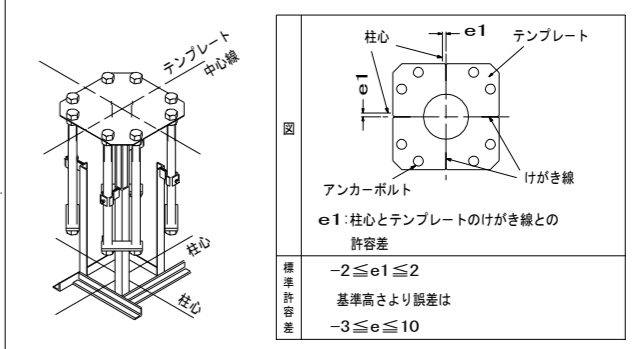
6. 工事場施工

6.1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト (フレーム) の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。
●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。
●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

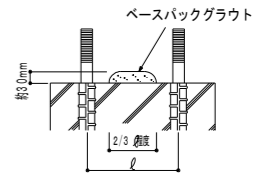


6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト (フレーム) との取り合いを考慮する。
●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

●レベルモルタルはベースバックグラウト (グラウト材) を使用し、大きさは右図による。



6.5 柱心を含むアンカーボルトの本締め (弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6.6 ベースバックグラウト (グラウト材) の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋 (6kg) に対して、計量カップで1.0~1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。
●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者 (元請) の管理のもとで実施するものとする。

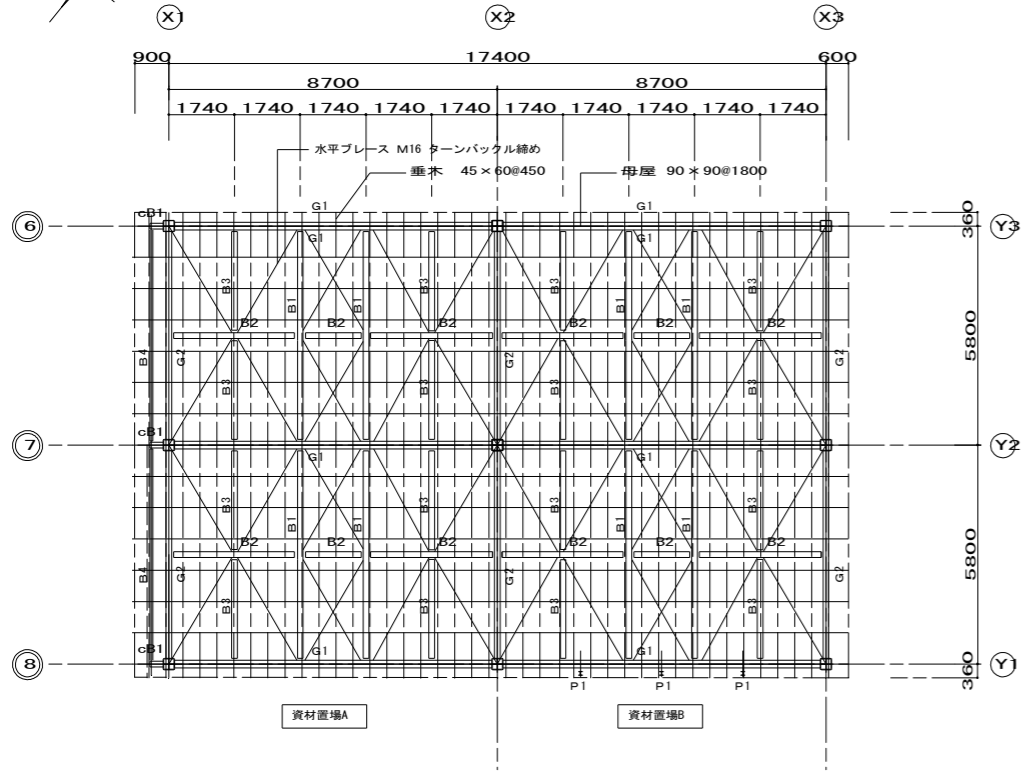
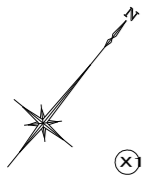
●本工法のうち6. 2アンカーボルト据付け及び6. 6ベースバックグラウトの注入は、ベースバック施工技術委員会によって認定された有資格者 (ベースバック施工管理技術者・施工技能者) が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作業者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

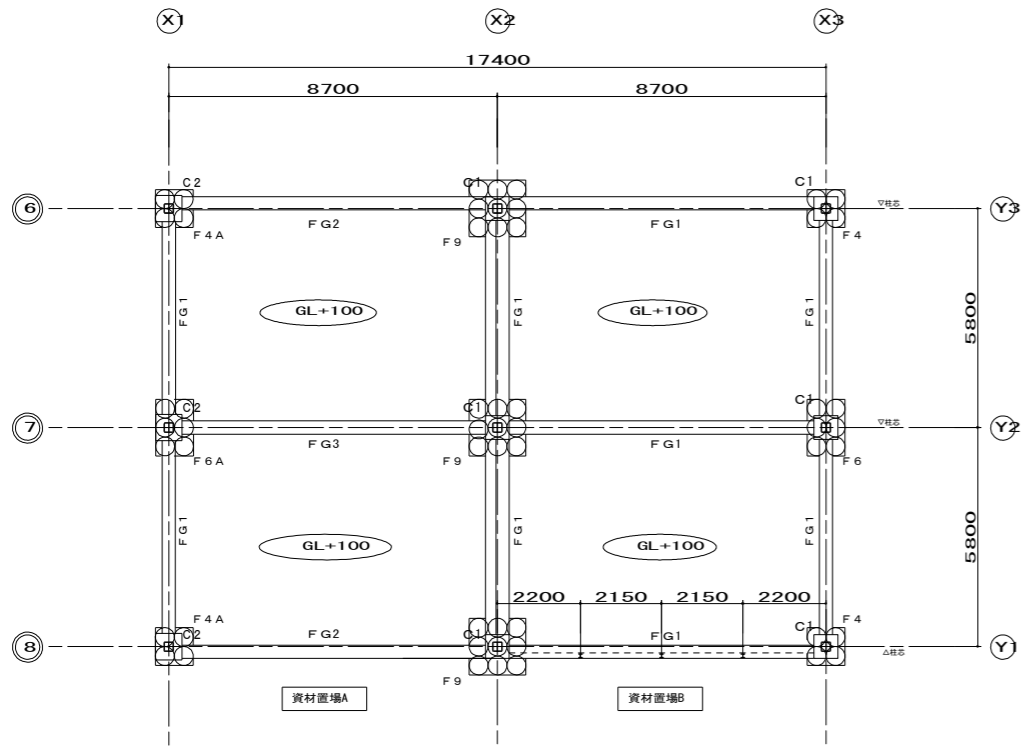
Large table with columns for column type, base plate, anchor bolts, and frame base. Lists various dimensions and materials.

Table with columns for project name, location, date, scale, company name, and contractor name. Lists '令和6年度 土地改良技術' and '近畿農政局 土地改良技術事務所'.

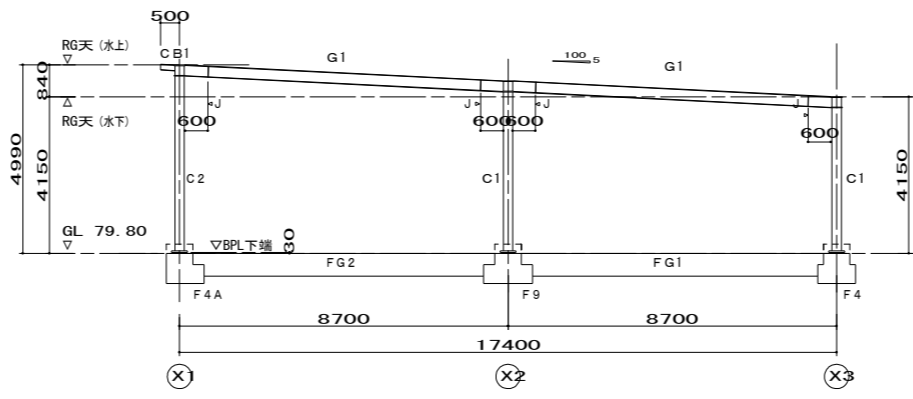
一級建築士 大臣登録第301654号 板倉祥浩
一級建築士 大臣登録第 99586号 青木由男



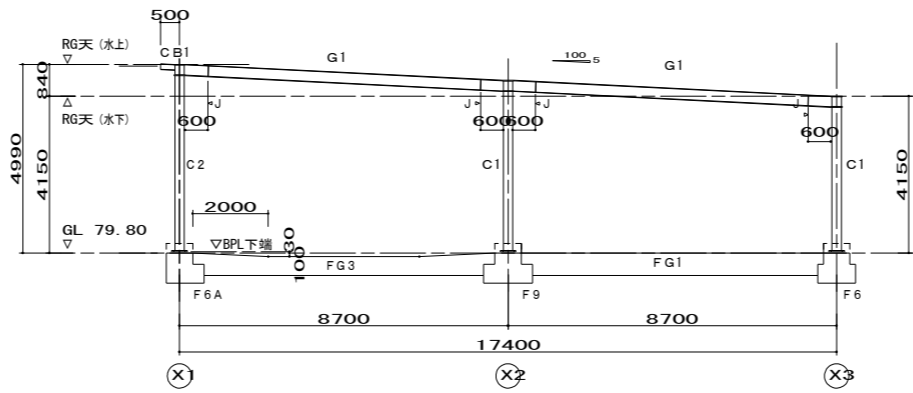
R階伏図



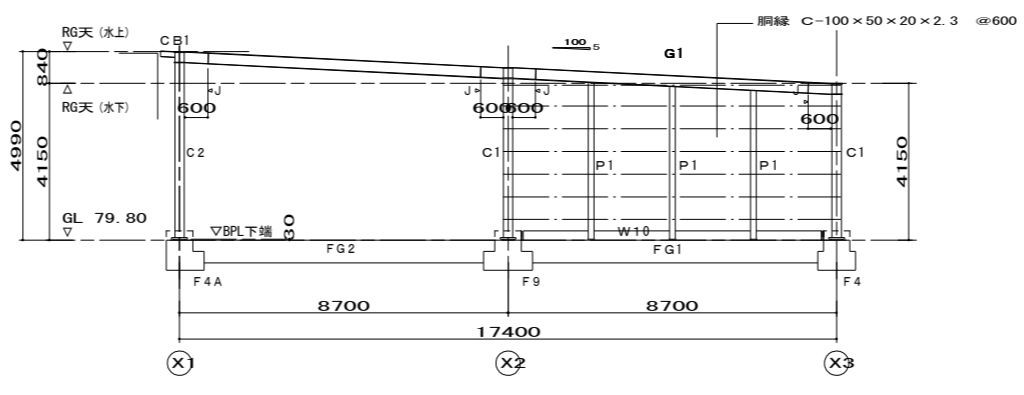
基礎伏図 GL+100 土間天端を示す



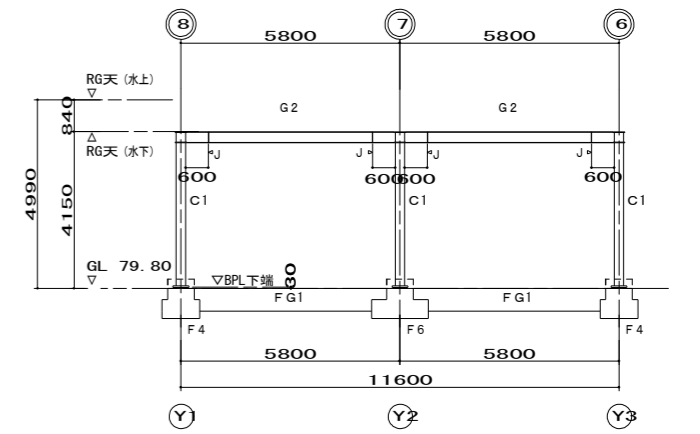
Y3通軸組図



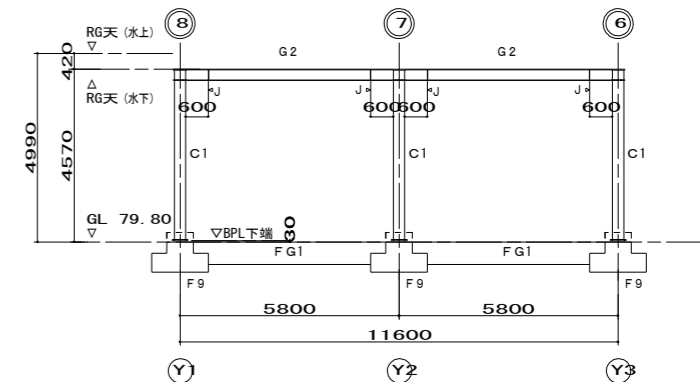
Y2通軸組図



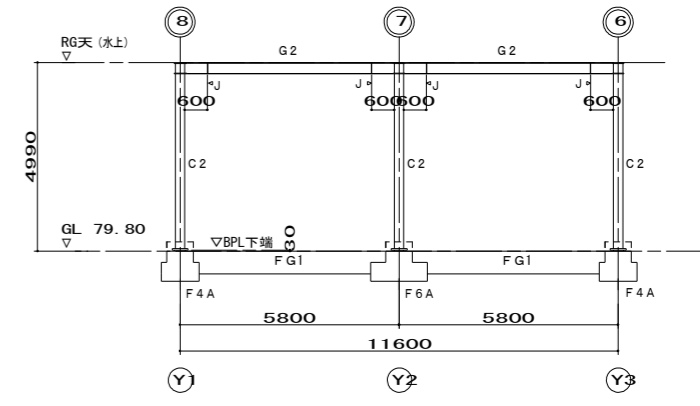
Y1通軸組図



X3通軸組図



X2通軸組図



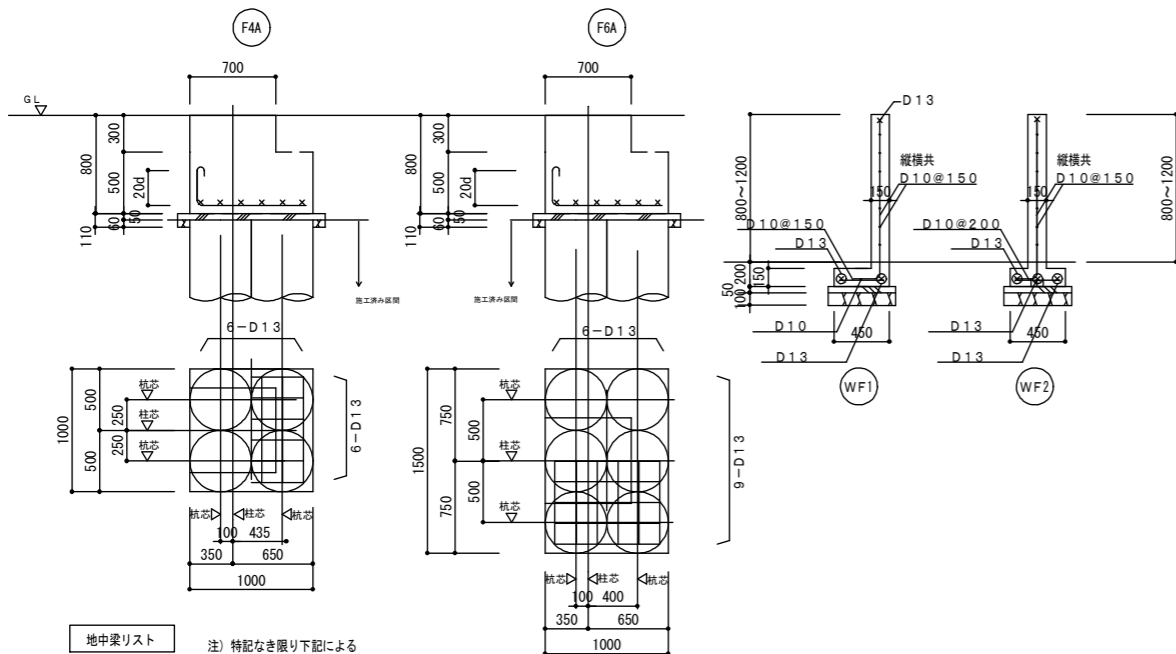
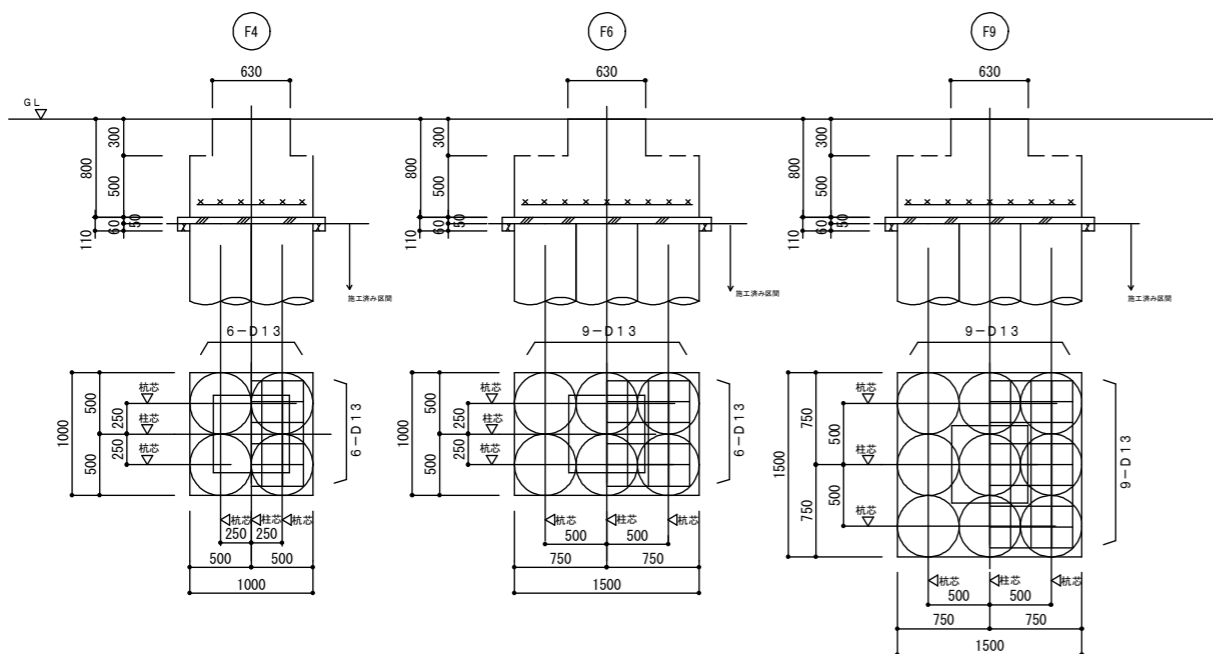
X1通軸組図

(X1) : 新設資材置場の通り符号を示す。

工事名	令和6年度 土地改良技術 近畿農政局土地改良技術事務所災害応急用ホップ資材庫建築工事		
図面名	新設資材庫 伏せ図、軸組図		
年月日			
尺度	A1 : 1/100	図面番号	S-10
会社名			
事業(務)所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		

一級建築士 大臣登録第301654号 板倉祥浩
一級建築士 大臣登録第 99586号 青木由男

基礎リスト



地中梁リスト

注) 特記なき限り下記による
 1. 腹筋の幅止めはD10@1000とする。
 2. 梁主筋の礎柱への定着は40dとする。

符号	FG1	FG2	FG3		
位置	全断面	全断面	X1端部	中央	X2端部
断面					
B×D	350×600	350×600	350×700	350×600	350×700
上端筋	3-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19
下端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19
スターラップ	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100		
腹筋	2-D13	2-D13	2-D13		

ハンチ長さ L=2,000

礎柱リスト

注) 特記なき限り下記による
 ・TOP HOOPは2□-D13とする

符号	FC1	FC2
断面		
B×D	630×630	700×700
主筋	12-D19	12-D22
フープ	□-D13@100	□-D13@100

鉄骨柱リスト

注) 特記なき限り下記による
 ・柱鋼材質はBCR295とする。
 ・柱脚仕様はベースバック仕様による。

名称	C1	C2	P1
主材	□-250×250×12	□-300×300×12	H-100×100×6×8 (SS400)
柱脚			
	(ベースバック 25-12V)	(ベースバック 30-12V)	
ベースプレート	BPL-36×420×420 (SN490B)	BPL-32×520×520 (SN490B)	BPL-12×150×200 (SS400)
A. BOLT	4-M39 (SD490)	8-M30 (SD490)	2-M16 (SS400) L=400 フック付き ダブルナット締め

鉄骨部材リスト

注) 特記なき限り下記による
 ・鋼材質はSN400 (大梁: SN400B, 小梁: SN400A) とする
 ・HTBは、S10Tとする

符号	部材	仕工・継手		備考
		ガセット	HTB	
RG1・RG2	H-294×200×8×12	-	-	継手は継手リストによる
B1・B2	H-250×125×6×9	GPL-6	2-M20	
B3	H-200×100×5.5×8	GPL-6	2-M16	
B4	H-100×100×6×8	GPL-6	2-M16	
CB1	H-125×125×6.5×9	-	-	
HV	水平ブレース 1-M16 建築用タンパクル鋼 (JISA5541)	GPL-9	1-M16	 隅肉溶接は S=8.0, L=80mm以上とする

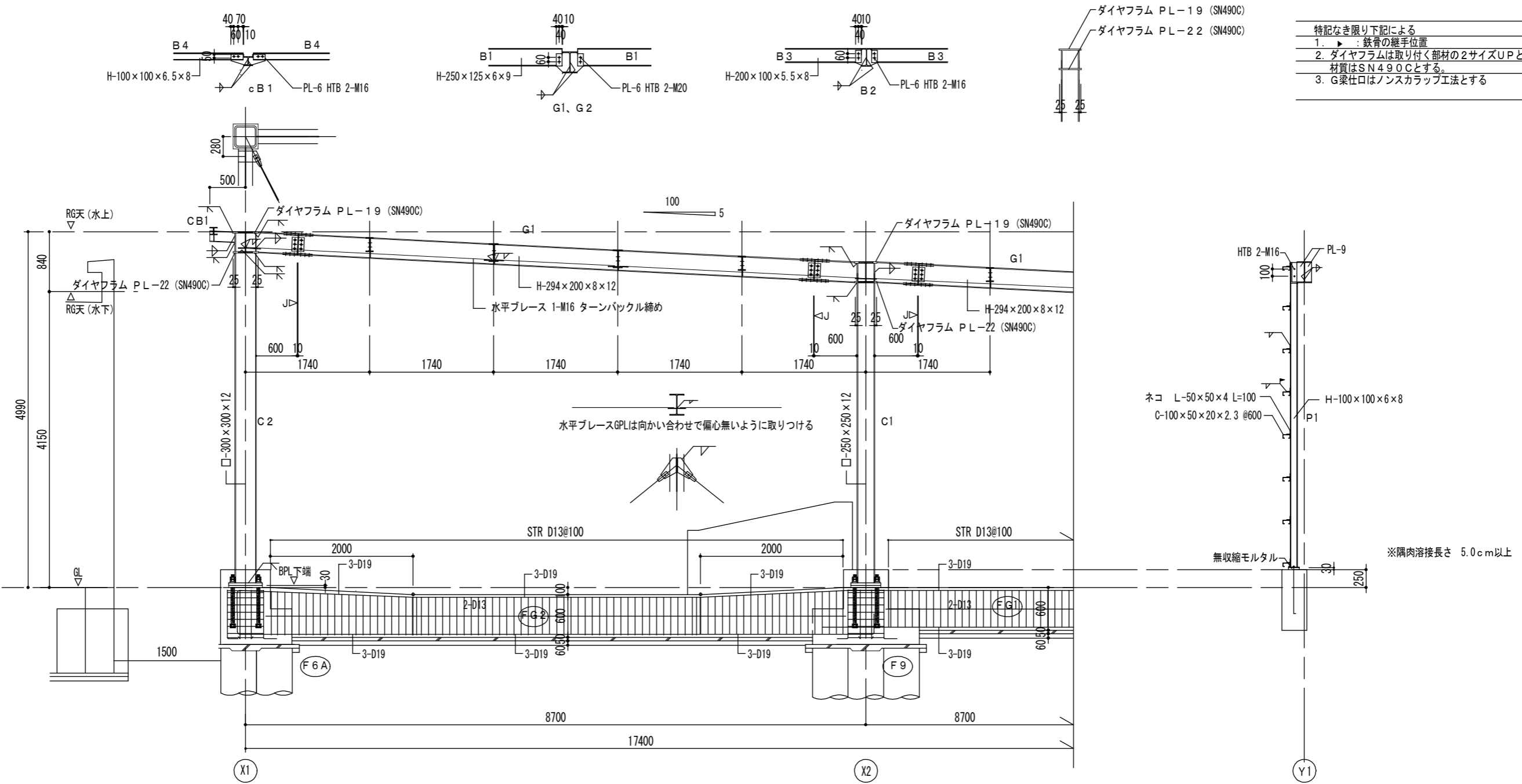
継手リスト

注) 特記なき限り下記による
 ・鋼材質はSS400とする
 ・HTBは、S10Tとする

RG1, RG2			
H-294×200×8×12 (SS400)			
フランジ	HTB 24-M20	2PL-9×200×410 4PL-9×80×410	
ウェブ	HTB 6-M20	2PL-9×200×170	

一級建築士 大臣登録第301654号 板倉祥浩
 一級建築士 大臣登録第 99586号 青木由男

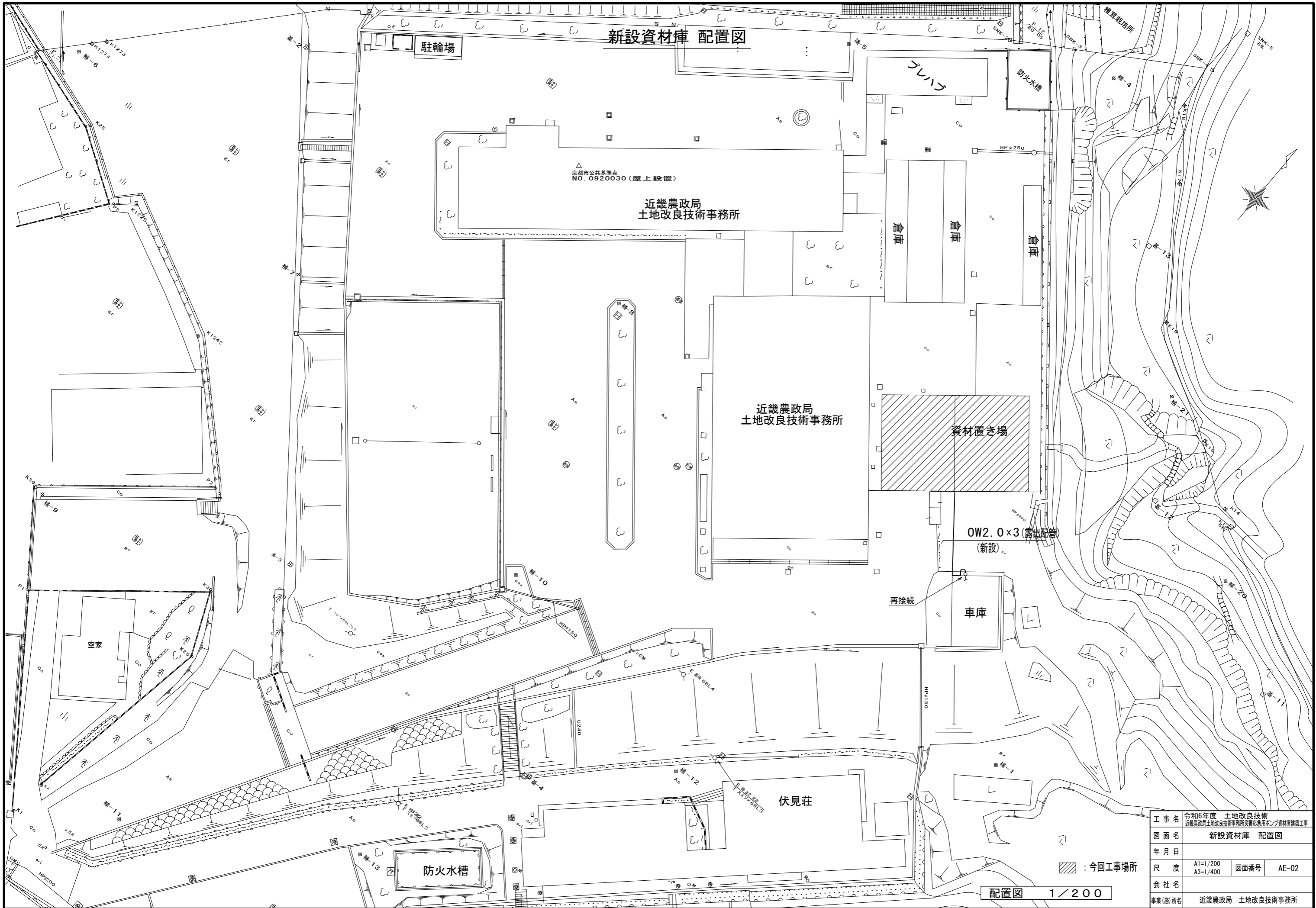
工事名	令和6年度 土地改良技術 近畿農政局土地改良技術事務所災害応急用ポンプ資材庫建築工事		
図面名	新設資材庫 部材リスト		
年月日		図番	S-11
尺度	A1: 1/30 A3: 1/60	図番	S-11
会社名			
事業(務)所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		



- 特記なき限り下記による
- 鉄骨の継手位置
 - ダイヤフラムは取り付く部材の2サイズUPとし、材質はSN490Cとする。
 - G梁仕口はノンスラップ工法とする

Y2通軸組図

工事名	令和6年度 土地改良技術 近畿農政局土地改良技術事務所災害応急用ポンプ資材庫建設工事		
図面名	新設資材庫 Y2通架構詳細図		
年月日			
尺度	A1: 1/30 A3: 1/60	図面番号	S-12
会社名	一級建築士 大臣登録第301654号 板倉祥浩 一級建築士 大臣登録第 99586号 青木由男		
事業(務)所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		



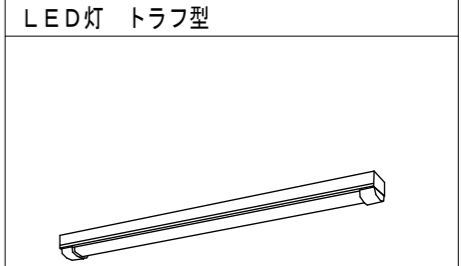
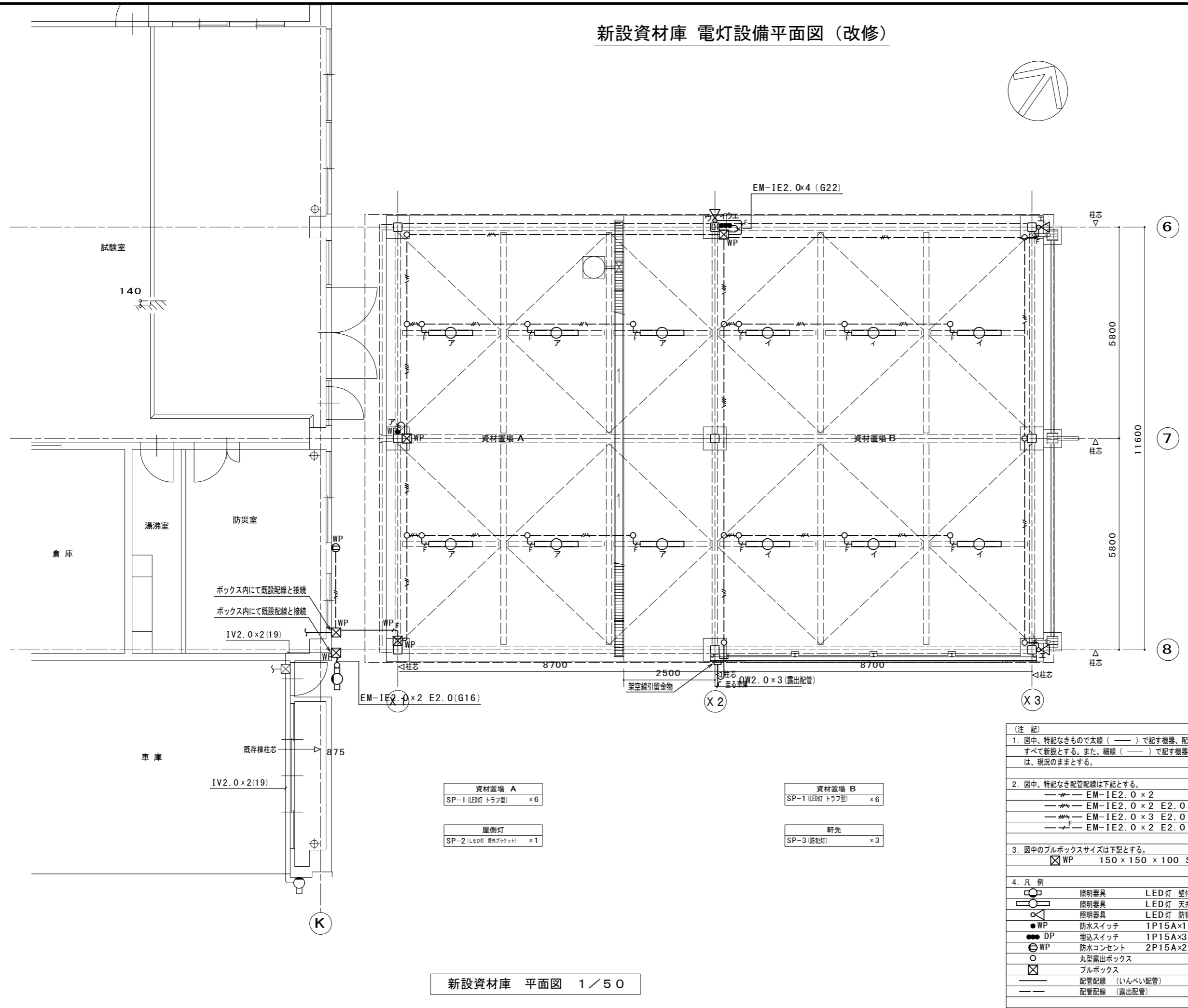
工事名	令和6年度 土地改良技術 近畿農政局土地改良技術事務所災害応急用プレハブ資材庫建築工事		
図面名	新設資材庫 配置図		
年月日			
尺度	A1=1/200 A3=1/400	図面番号	AE-02
会社名			
事業(務)名	近畿農政局 土地改良技術事務所		

配置図 1 / 200

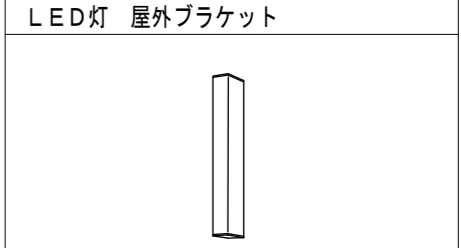
▨ : 今回工事場所

新設資材庫 電灯設備平面図 (改修)

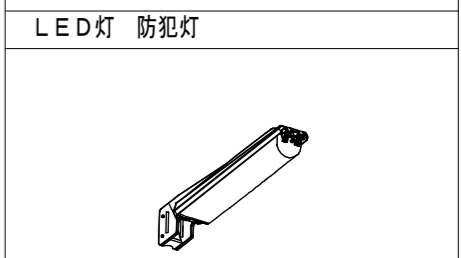
照明器具姿図 (公) : 公共施設用照明器具型番を示す。



SP-1
参考品番 パナソニック NNFS41810C LE9



SP-2
参考品番 パナソニック NNFS21811C LE9



SP-3
参考品番 パナソニック NNY20338 LE1

ボックス内にて既設配線と接続
ボックス内にて既設配線と接続
IV2.0x2(19)

資材置場 A
SP-1 (LED灯 トラフ型) × 6

屋側灯
SP-2 (LED灯 屋外ブラケット) × 1

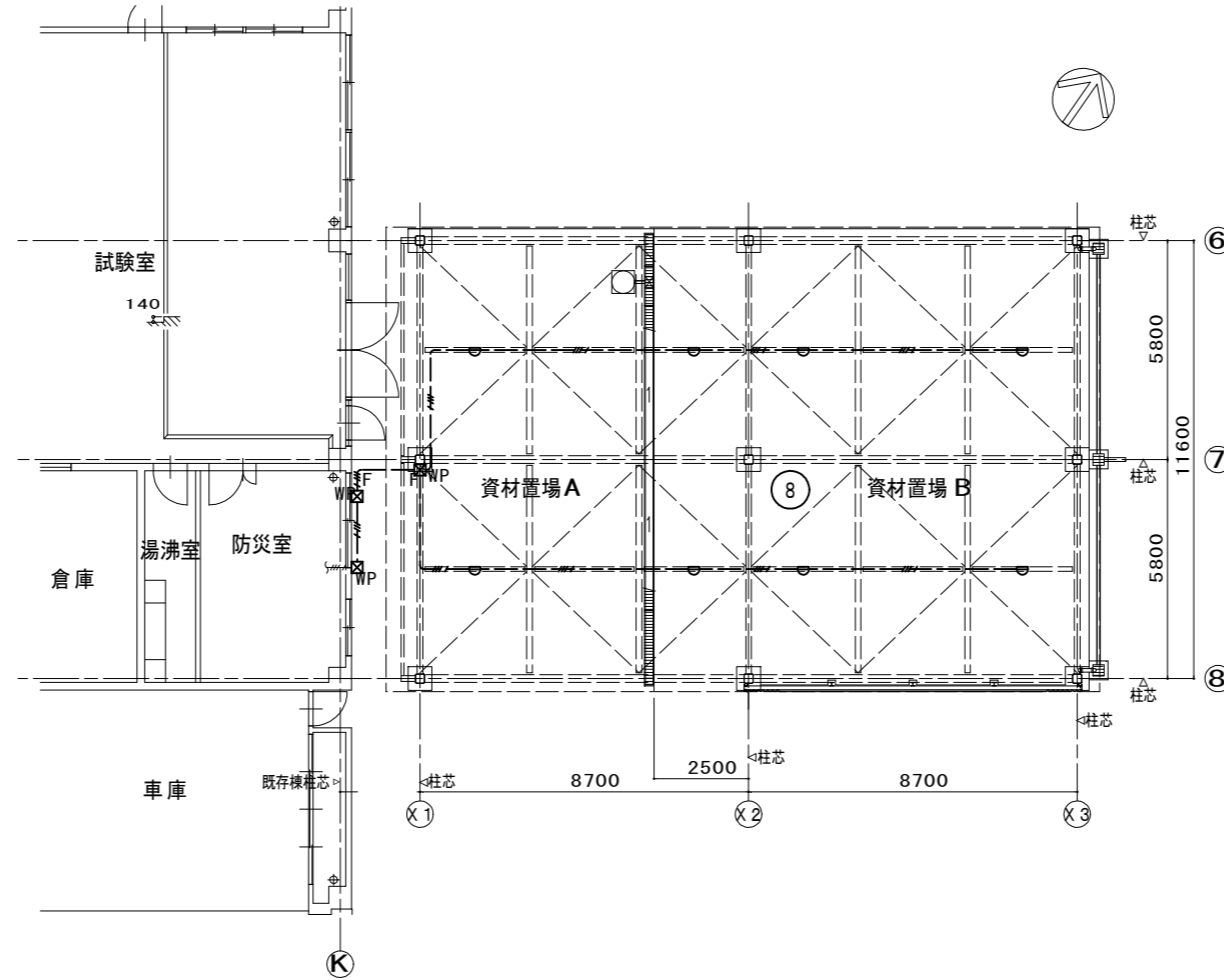
資材置場 B
SP-1 (LED灯 トラフ型) × 6

軒先
SP-3 (防犯灯) × 3

- (注記)
- 図中、特記なきもので太線 (—) で記す機器、配管配線、ボックス等は、すべて新設とする。また、細線 (---) で記す機器、配管配線、ボックス等は、現況のままとする。
 - 図中、特記なき配管配線は下記とする。
 --- EM-IE2.0x2 (G16)
 --- EM-IE2.0x2 E2.0 (G16)
 --- EM-IE2.0x3 E2.0 (G22)
 --- EM-IE2.0x2 E2.0 (F2-17ビニル被覆)
 - 図中のプルボックスサイズは下記とする。
 WP 150x150x100 SUS-WP
 - 凡例
 ○ 照明器具 LED灯 壁付
 ○ 照明器具 LED灯 天井付
 ○ 照明器具 LED灯 防犯灯
 ● WP 防水スイッチ 1P15A×1
 ● DP 埋込スイッチ 1P15A×3 防滴プレート (アルミ製)
 ● WP 防水コンセント 2P15A×2E
 ○ 丸型露出ボックス
 □ プルボックス
 --- 配管配線 (いんべい配管)
 --- 配管配線 (露出配管)

工事名	令和6年度 土地改良技術 近畿農政局土地改良技術事務所災害応急用ポンプ資材庫建築工事		
図面名	新設資材庫 電灯設備平面図 (改修)		
年月日			
尺度	A1=1/50 A3=1/100	図面番号	AE-03
会社名			
事業(務)所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		

新設資材庫 平面図 (改修)



新設資材庫 平面図 1/50

(注 記)	
1. 図中、特記なきもので太線 (———) で記す機器、配管配線、ボックス等は、すべて新設とする。また、細線 (- - -) で記す機器、配管配線、ボックス等は、現況のままとする。	
2. 図中、特記なき配管配線は下記とする。	
EM-AE1.2-4C (G16)	
EM-AE1.2-4C (F2-17 ビニル被覆)	
3. 図中のブルボックスサイズは下記とする。	
WP 150 x 150 x 100 SUS-WP	
4. 凡 例	
差動式スポット型感知器 2種 露出	
警戒区域番号	
ブルボックス	
丸型露出ボックス	
配管配線 (いんべい配管)	
配管配線 (露出配管)	

工事名	令和6年度 土地改良技術 近畿農政局土地改良技術事務所災害応急用ポンプ資材庫建築工事		
図面名	新設資材庫 自動火災報知設備平面図 (改修)		
年月日			
尺 度	A1=1/100 A3=1/200	図面番号	AE-04
会 社 名			
事業(務)所名	近畿農政局 土地改良技術事務所		